

第1回「放射性廃棄物の減容化に向けたガラス固化技術の基盤研究事業」 中間評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 2022年11月21日（月） 13:10～15:05

2. 場 所 経済産業省別館5階501-1及びオンライン

3. 出席者

（検討会委員）[敬称略・五十音順、※は座長]

※澁谷 進	公益財団法人 原子力バックエンド推進センター フェロー
杉山 一弥	一般社団法人 原子力産業協会 地域交流部 調査役
関 哲朗	文教大学 情報学部 教授
山村 朝雄	京都大学 複合原子力科学研究所 教授
渡部 隆俊	原子力発電環境整備機構 技術部 部長

（研究開発実施者）

薄井 康史	株式会社 I H I
兼平 憲男	日本原燃株式会社
竹内 正行	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
佐々木紀樹	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
宇佐見 剛	一般財団法人電力中央研究所
近藤 敏	一般社団法人新金属協会
深田 聖	一般社団法人新金属協会

（事務局）

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課
課長 貴田 仁郎
課長補佐 仁科 匡弘
専門官 弓削多 宏貴

（評価推進部署）

産業技術環境局 研究開発課
技術評価係長 浅野 常一
技術評価専門職員 渡辺 智

4. 配布資料

資料 1 評価検討会委員名簿

資料 2 研究開発評価に係る委員会等の公開について

資料 3 経済産業省における研究開発評価について

資料 4 評価方法（案）

資料 5 評価コメント及び評点票

資料 6 技術評価報告書の構成（案）

資料 7 評価用資料

資料 8 補足説明資料

質問票

参考資料 使用済MOX燃料処理技術の基盤整備 概要資料

5. 議事概要

（１）開会

委員の互選によって、澁谷委員が本検討会の座長に選出された。

（２）研究開発評価に係る委員会等の公開について

事務局から、「資料 2 研究開発評価に係る委員会等の公開について」により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、会議、配布資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

（３）評価の方法等について

評価推進部署から「資料 3 経済産業省における研究開発評価について」により、事務局から「資料 4 評価方法（案）」、「資料 5 評価コメント及び評点票」、「資料 6 技術評価報告書の構成（案）」により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

（４）事業の概要について

事務局及び実施者から、「資料 8 補足説明資料」、「資料 7 評価用資料」により、放射性廃棄物の減容化に向けたガラス固化技術の基盤研究事業の概要について説明がなされた。

主な質疑等は以下のとおり。

- ウラン分離・回収技術開発について、事業終盤にも試験を実施する計画があるが取りまとめに向けた予定について質問があった。実施者より、事業の性質上、廃棄物からウランを分離して、回収するという２段階での進め方となるため、ウラン回収技術開発は終盤まで試験を実施する予定であるが、2024年度には分離・回収技術開発の成果をまとめる計画と回答した。
- 学会発表等において事業の成果を公開することは、本事業の内容や意義を国民にご理解いただく観点からも重要となるため、積極的に発表したほうが良いと

複数の委員よりコメントがあった。これに対し、実施者より、ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり発表件数は少なくなっていたが、2022年度は発表件数を増加しており、引き続き成果の発表に努めると回答した。

- 本事業の実施内容について、海外での開発状況と比較したときの独自性、原子力の安定利用のための技術者の育成及び研究施設の維持といった観点からも必要性を説明したほうが良いとコメントがあり、事務局として拝承した。
- 本事業には多くの事業者や再委託先として大学等が参画しているが、お互いの実施内容に齟齬が生じないように適切に相互調整がなされているのか質問があった。実施者より、事業者間で日常的に成果についての情報共有を行うとともに、年に2回程度情報共有会議を開催し、各々の計画、成果を共有し、意見交換する場を設けていることを回答した。

(5) 閉会

「資料5 評価コメント票」の提出期限を2022年12月2日とすることを確認した。また、第2回評価検討会の開催方法について説明した。

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課

電話：03-3501-6291